

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197500051		
法人名	有限会社 クリニカ		
事業所名	カーサ シーザーズ2号館 グループホーム くらす		
所在地	滝川市栄町3丁目6番12号		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年12月17日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.katgokouhyou.jp/katgosp/information/public.do?JCB=0197500051&amp;S-CD=320&amp;PCD=01">http://www.katgokouhyou.jp/katgosp/information/public.do?JCB=0197500051&amp;S-CD=320&amp;PCD=01</a>
-------------	---

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地が市内駅前という事もあり来訪される方の公共交通機関の便がよく、車のない方での来訪もしやすい。  
 外出の機会を企画したり、施設の畑に季節の花や野菜の苗を植えて成長や収穫の喜びを日々感じるなど、外の空気に触れ、季節感を感じて頂ける支援を意識している。  
 また自分達で出来る事は職員の見守りを受けながら一緒に行く等、利用者様一人ひとりのADL・QOLを維持・向上できるよう支援に努めており、何気ない日常の行動が本人の自信へつながるよう支援している。  
 生活する上で充実感・達成感・満足感を感じて頂けるような支援を行っている。  
 ↑ユニットのグループホームのため、利用者様と職員との間に信頼関係があり、共に生活していく中で、家庭的で家族のような安心した生活を提供できるよう努めている。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年11月20日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR滝川駅から徒歩5分の市中心部商店街に隣接している4階建てで、一階にグループホームと小規模多機能型居宅介護事業所があり、二階から四階が高齢者専用賃貸住宅で、全館明るく清潔で、機能的な構造設備である。地域の防災時の避難場所でもある。事業所のケア理念が「笑顔で安心して生活を送り、地域でふれあえる生活を支援します」となっており、これは職員全員で作成したもので、日々のケアの実践に活かしている。事業所は、「利用者の自立支援」をモットーとしており、職員の笑顔が利用者の笑顔となり、食事も排泄も自立へと改善されるなど職員も利用者も笑顔の絶えないアットホームな事業所である。事業所開設から間もないため、今後は、地域密着型サービスの地域の拠点として期待される事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念とは別に、本年度、職員全員でケア理念の作成に取り組み、スタッフに浸透しやすく、ケアの目標となりうる理念を作り上げている。	法人理念の他に職員全員で、事業所のケア理念を作成し、法人理念と併に事業所内に掲示し、職員は常に携行して、毎朝のミーティングで唱和し、日々のケア実践に活かしている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の新年会や行事に参加しており、散歩や買物などで近隣の方々と挨拶を交わし日常的な交流に努めている。	町内会の行事に参加し、散歩や買い物などで近隣の方々と交流をしているが、事業所所在地が市中心部商店街なため、商店街事業者等との交流が多い。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談などで認知症介護のアドバイスをやっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を施設行事に合わせて開催し積極的に意見を取り入れて施設の運営に反映している	2ヶ月に1回定期的に開催しており、包括センター職員や民生委員、提携病院看護部長の参加がある。利用者や家族の参加も多く、施設運営の意見を積極的に取り入れている。	行政関係や民生委員、利用者・家族などの参加が多いが、地域密着型サービスの事業所として、町内会や近隣の方など、地域の方への理解や交流を期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者を中心に、ケア会議の参加や連絡・報告・相談等を行っている。更新、認定調査時にもサービスの実情を説明している。また、運営推進会議のメンバーとして参加協力頂いている。	地域のケア会議が2ヶ月に一回あり、地域での市担当者や他の介護事業者との情報交換や連携構築を行っている。また、運営についての報告や相談を行い助言を得ている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束と考えられるものは、その都度話し合いをし、拘束しないように検討している。玄関の施錠は夜間の防犯やその他やむを得ない場合に限り、一時的に行うこともある。	入職時に身体拘束を含めた研修を行い、その後は年1回定期的に研修がある。マニュアルや必要な場合の同意書・理由書も整備されており、拘束しないよう検討し、ケアにあたっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に学ぶ機会は設けていないが、その都度、話をし防止に努めている。又、入浴等に身体の観察を十分に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人の言葉で、不安なことや要望を聞き出せるような場や雰囲気作りをし、よい関係を作るようにしている。該当する利用者、家族に成年後見人制度を活用できるよう支援し、現在活用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、本人や家族に見学して頂き、当ホームについての説明を細かく行なって疑問、不安がないか確認している。納得の上で契約に進めるようにしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、確認はしているがあまり使用されておらず、電話や来訪時に都度確認している。その他、家族には、利用者の生活状況や通院時の診察内容を報告し、意見や要望を把握している。	意見箱や来訪時などの家族からの意見は、職員全員で検討し、ケアカンファレンスで活かしている。また、運営に関する意見等も職員全員で検討し、事業所の運営に反映している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場を設けたり、日々の業務の中で、段階的に話を伝える・受ける機会をもてるように意識している。	職員の意見を聞く機会として、ユニット毎の会議を月一回開催し、職員の意見や提案を検討し、運営に反映させている。また、会議参加者にポイントを付与し会議の活性化を推進している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況については、管理者が代表者へ伝えている。やりがいや向上心を持って働ける職場環境になるよう、色々な意見を法人本部へ伝えるようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には研修を行っている。研修案内等の資源提供は協力あり、案内等回覧は行っている。あとは職員個々の意欲に任されている状況である。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や行事等の資源提供があり、参加する事により交流の機会が持てているが、一部の職員にとどまっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階で得た情報(生活歴・希望・不安等)を共有し、サービス利用開始時に活かせるように意識している。また、常に耳を傾けられるよう、表情や行動を見守るよう意識している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期はご家族への連絡・報告を定期的に行ない、暮らし振りや支援の実情を伝えている。また、気軽に話や相談が出来るような雰囲気を作るよう配慮している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前からの面談や家族からの情報により、その時にまず必要な事を見極め、他のサービス利用も視野に入れた対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりの中で、一緒にテレビを観たり、ソファーに座り昔話を聞いたり、本人の体調に合わせて、食事の準備食器拭き等、利用者と共にしながら学ぶことも多く、共に支え合う関係が築かれている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に安心して頂くことはもちろんのこと、ご家族も支援される側ではなく、職員と一緒に本人を支えていくことができるよう情報交換や提供をしている。又、面会時等でも近況を報告し、ご家族と共に話ができる関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の意向を尊重し、老人クラブへの参加や馴染みの店での買い物、理髪店、寺参り・墓参等は家族の協力も頂きながら、継続しての関係支援に取り組んでいる。	入居前に生活様式などを確認・打合せし、馴染みの人や場との関係継続の支援を行っている。お盆・お正月は家族と打合せし外出外泊等支援しており、また、家族・友人・知人等の来訪も多い。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、入居者同士で話をしたり、職員が話しかけたり、入居者同士が居室に遊びに行ったりしている。共通の題材を通して一緒に作業したり、話題を提供する事で和やかな雰囲気、きっかけ作りに配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してからも電話連絡等を行い、必要に応じて、相談等を行っている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活歴を知り、趣味・嗜好を把握、伝えられる方については現在の希望を聞く機会をもち、困難な方に対しては家族の意向も聞きながら本人本意となるよう意識している。	一人ひとりの思いや暮らし方の意向を利用者・家族から聞く機会をもち、把握して本人本意となるよう努めている。また、一人ひとりの思いや意向を記録し、全職員で共有して活かしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後で、本人・家族その他関係者からの聞き取りや引継ぎにより、情報を得、本人との関わりの中で確認し情報共有していくようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化などに気をつけて観察し、細かく申し送りをして情報を共有する事で把握に努めている。3ヶ月に1回プランの見直しをしてアセスメントもしている。日々の生活の中でも他にもできる事はないか、手を出し過ぎていないか気をつけている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの意向聞き取りはもちろん、関係者の意見やアイデアを聞く機会をもっているが、全ての計画に反映出来るよう努めている。	サービス担当者会議にて、本人・家族の意向や意見を聞き、検討して介護計画を作成している。最初は毎月モニタリングを行い意見の反映と見直しに努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活が分かるような記録を心掛け、朝・夕に申し送りし情報を共有している。それぞれの記録や気づきを介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれる必要性については、その都度工夫した対応ができるように柔軟な対応を心掛けている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物や外食、銀行、老人クラブ、お寺、理髪等へ行く機会があり、ご本人と社会との接点を持ち続けている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診時には、情報提供を行っている。必要に応じて職員が受診付き添いを行い、診療内容は家族へ報告し、情報を共有している。	かかりつけ医は在宅時からの継続支援を行っている。定期受診は家族同行だが、不都合な場合は職員が同行し、通院報告書として記録し、家族へ報告して情報共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置されていない。協力医療機関の看護師、訪問診療の看護師等に相談する時もある。早めの対応を心掛けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはお互いに情報交換をしている。また、入院時にも面会に行き、状態を聞いたり観察をして、職員間で情報を共有している。退院のめどがたてば、退院後の準備をして、すぐに対応できるように努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来る事は契約時に十分説明をしている。具体的な各ケースよっての方向性は、予測される内容は事前に相談し、可能な限り、本人、家族の希望にそったに対応をしている。	重度化や終末期は、訪問診療や訪問看護師等の医療連携で対応している。また、終末期においての対応は、系列の医療機関で全職員が研修しており、本人・家族の希望に沿った対応を行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員に周知している。今後研修会参加を増やしていきたい。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。今後近隣の方と合同の防災訓練を実施していきたい。	年2回夏と冬に避難訓練を行っている。地域の消防団と連携しており、事業所の建物が災害時に地域の避難場所でもある。今後は地域の方と連携して防災訓練を行う計画である。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格や状態を見極めるように努め、会話している。話しにくいことは個室で話している。	担当者が一人ひとりの人格やケアを記録し、職員全員で情報共有し、声掛け・うながしなど個別に対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望をできるだけ聞くようにしており、時には選択できるような働きかけをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしている。言葉や体調等の様子からも判断し、その人らしい暮らし・過ごし方ができるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回理髪スタッフが施設に来てくれている。毛染めやパーマ等、本人の意向に合わせてしてもらっている。本人の希望でお化粧をする利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調に配慮しながら、個々のできることや要望に応じて準備、片付けをみんなでやっており、職員と一緒にやっている。	毎月、給食会議を行い、栄養管理士と打合せして、利用者の好みに合ったメニュー作りを工夫している。行事食も意向に合わせるなど利用者と職員と一緒に楽しみながらの食事を支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実際の摂取量等、状況は毎回記録に残しており、情報共有している。必要に応じて、補食や水分に順ずる物を提供する事で補えるように注意している。メニューについては業者が入っており栄養バランスは計算されている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。本人の能力に合わせて声掛けをしたり、介助したりしている。拒否がある人は無理はしないが、就寝前には口腔ケアができるように努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全員トイレでの排泄をしている。介助が必要な利用者であっても、一部分でもできる動作は自分でやってもらっている。また時間ごとに職員から声掛け誘導もしている。夜間は睡眠優先とし、起きない利用者についてはオムツを使用しているが、本人の希望がある時はトイレ誘導もしている。	日中は利用者全員、トイレでの自立した排泄を支援している。また、職員は声掛け誘導など利用者の自立した生活を支援するよう心掛けており、一人ひとりのケアプランを職員が共有し、利用者一人ひとりを支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘について意識する為、排便チェックを確認し、個別に対応している。便秘がちな利用者には水分を多めに提供したり、職員と一緒に体を動かす機会を作るようにしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を基本としているが、利用者同士での入浴や拒否が強い利用者にも一人ひとりに合わせ柔軟に支援している。	週3回の入浴予定であるが、本人の意向に合わせての入浴も可能である。浴槽は家庭的なサイズの馴染みの感じで、入浴を好まない利用者にも配慮し、清潔な暮らしを支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動と休息のバランスに注意している。定時の巡回により換気と加湿対応し環境に配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも確認出来るように決められた場所に処方薬についての説明を用意し、変更あった場合は記録や口頭にて引継ぎが行われている。また、薬のセットから飲み込むまでの確認を注意している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で行ってきた家事などできることをして頂くことで、喜びを感じている。外出や買物等で気分転換を行ない、行事やレク等も取り入れ、楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望全てに対応出来てはいないが、外出が大切であることを職員は理解しており、体調等みながら機会が持てるよう心掛けている。家族の協力を頂く機会も多く、季節を感じられる場所へドライブに行ったり、思い出の場所へ出掛けたりしている。ホーム前ベンチでの外気浴などで、気分転換の機会も作っている。	事業所としては、自立支援がモットーなため、本人の希望により、家族と買い物や老人クラブの参加、海や近隣のドライブ・北竜町のひまわり見学や回転ずしなどの外食も多く、利用者にとって、在宅時と変わりなく楽しみな毎日をごせるような外出支援を行っている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの力に応じて、可能な限り機会を継続し、楽しみに繋がるよう支援している。金銭を所持する事で不安や被害的な気持ちを持つ場合もあるので心理面にも気をつけて対応している。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意向を確認しながら、ハガキの返信や年賀状等を本人と書き、送る機会を持つようにしている。また、受診後の報告やその他、変化のあった場合などに電話連絡を行っており、本人と代わる等の機会がある。			
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの行事に合わせた飾り付けを行っている。また、温度や湿度にも気をつけ、綺麗で居心地が良いように、配慮している。寒い・暑いなど利用者からの言葉があればすぐに対応するようにしている。	共用の空間(居間・食堂など)は明るく、清潔で、日中は利用者が殆ど集まって過ごしている居心地のよい場所である。季節ごとの飾りつけや行事の楽しい写真などが掲示されており楽しみの場所でもある。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	趣味活動やレクリエーション等、それぞれが、一定の空間で行えるよう実施している。ホールはワンフロアのため、難しい場面もあるが、思い思いに過ごせるようソファを配置している。			
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、思い出の品や使い慣れた物を持って来て貰えるよう説明がされており、家具や日用品の他、仏壇や写真等が置かれている。また、実際の暮らしの中で都度、不足品や必要な物を確認し、ご家族との連絡・相談を行っている。	利用者の使い慣れたものや馴染みの物を持参しており、居心地のよい居室として配慮している。また、バスタオルハンガーを設置するなど住み心地の面でも工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や家具等の配置を工夫し、転倒防止に配慮したり、残存能力を活かした支援の中で、手摺・杖・歩行器を安全に使用出来ているか留意しながら、自立した生活が送れるよう努めている。			